



ミニデイサービス便り

安全確保への支援

一宮市が愛知県と協力して、昭和56年以前の民家について、住宅の耐震診断事業を進めていると知り、ミニデイサービスの場所が、借りた時点で補強をしてきたものの、大きな地震についての強度には心配がありましたので、デイサービスの場所の耐震調査を一宮市に依頼しました。

ところが、残念なことに、民家でも居住していないから、診断対象から外れるとのことでした。

しかし、複数の高齢者が集う場所であって、安全確保が一番の問題であり、また、助け合い活動を住民参加で推進する時代であれば、こういう支援も積極的に検討してほしいと思いました。

勿論、自分たちの活動ですから自前で安全確保することは当然だと思います。

診断結果、補強が必要で多額なお金がかかるかも知れないけれども、集う皆さんへの安全確保にはかえられないと判断致しました。

助け合い活動団体が財政的問題から、古い民家を借りてのデイサービスなどを行っているのは、ごく普通のことで、同じような悩みをかかえているのは当会だけではないと思われます。

今、国は人が集まる所には官民間問わず耐震強度を公開していく方向を打ち出しています。

今後に向けて、一宮市独自の施策で、是非複数の人が集まる場所の安全確保を積極的に行ってほしいと思います。

平成16年1月のミニデイサービスは

事務所 6日・13日・15日・20日・27日・29日

保育園 8日・22日

〈セミナー開催お知らせ〉

第18回住民参加型在宅福祉サービス 全国研究セミナー

日時・平成16年1月27日(火)~28日(水)

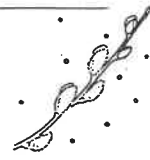
場所・全国社会福祉協議会灘尾ホール

メインテーマ

「住み続けられる」地域作りに向けて
~住民自身が考え、
創り出すサービスや活動の可能性~

参加費・8000円

主催・社会福祉法人 全国社会福祉協議会



1月の予定

- | | | |
|---------|---|------|
| 1日(木) | 会報「まごころ」発行 | (事務) |
| 4日(日) | 臨時総会・定例会
勉強会(糖尿食を学ぶ) | (事務) |
| 6日(火) | ミニデイサービス | (事務) |
| 7日(水) | サービス提供責任者会議 | (事務) |
| 8日(木) | ミニデイサービス | (事務) |
| 13日(火) | ミニデイサービス | (事務) |
| 14日(水) | サービス提供責任者会議 | (事務) |
| 15日(木) | ミニデイサービス・定例会 | (事務) |
| 17日(土) | 障害者支援勉強会 | (事務) |
| 20日(火) | ミニデイサービス
支援費制度指定事業者実地指導
サービス提供責任者会議 | (事務) |
| 21日(水) | ミニデイサービス | (事務) |
| 22日(木) | ミニデイサービス | (事務) |
| 24日(土) | 理事会 | (事務) |
| 27日(火) | ミニデイサービス | (事務) |
| 27日~28日 | 住民参加型福祉サービス・全国研究セミナー | (東京) |
| 28日(水) | サービス提供責任者会議 | (事務) |
| 29日(木) | ミニデイサービス | (事務) |

知的障害者・児へのふれあい広場

- *ふれあい広場絵画教室 毎週土曜 13時~16時
- *ふれあい広場のつどい 18日 午前
- *ふれあい広場 月・水・金

- *太極拳 毎週火曜 16時~17時
- *ピアノ教室 第2・4月曜 9時30分~

まごころ主催 ホームヘルパー2級 養成研修講座

平成16年4月14日開講予定
受講料・6万円(教科書代別) 毎週 水・金



福祉用具
リサイクル情報
譲りました
老人車 一台
譲ります
車椅子 一台

2月定例勉強会のお知らせ

日時・平成16年2月1日(日) 10:30~12:30
内容・看護と介護の狭間のケアについて
糖尿病について/透析について
講師・訪問看護ステーション・アウン
所長 野田明美さん

感謝・この度、Oさん、Nさんからご寄付をいただきました。大切に使用させていただきます。

本の紹介

「寝たきり老人」の
いる国
いない国

大熊由紀子著 ぶどう社新

既に26版
10万部を超えた
ロングセラー

なぜ、寝たきり老人が
いないの?

その、謎を探る旅は、
お年寄りのことから
障害をもつ人達へのこ
とへ、政治や文化、民
主主義への問題へと広
がっていった、温かく
シャープな女性ジャー
ナリストの目がとらえ
た「真に豊かな社会」
とは

ある外科医の独り言

診断

高 勝義

世の中ハイテク技術が進歩するにつれて、医療の世界でも、病気の診断技術はどんどん進歩している。今では当たり前になっているCT検査とか超音波検査とかいうものは、私が医者になった頃には全く無かった。

したがって患者さんの病気を診断するには、患者さんのお話をよく聞くことから始まり、患者さんの顔色や皮膚の状態、そして聴診所見や触診所見を元にし、レントゲン写真や血液の検査結果を参考にして、病気の診断をしたものである。

ある患者さんが診察室のドアを開けて入ってくる姿を見た時から、私の診察が始まるのである。この人の顔色は悪いなと感じたときは、貧血があるのか、心臓が悪くて顔色が悪いのか、黄疸があるのか、栄養が悪いのか等々を一瞬で感じ取るのである。

例えば腹が痛いという患者さんが診察室に入って来たとしよう。本当に腹が痛いのなら、大部分の人は腹を押さえるように前かがみになって入室するであろう。腹が痛いのには背骨をピンと伸ばし、堂々と入ってくるものなら、あーこの人の腹痛はたいしたことないなと感じながら診察をするのである。患者さんのお話をよく聞き、患者さんをよく診て、よく触れることによって病気の診断はほぼ半分はつくと思っている。

例をあげよう。虫垂炎(一般的には盲腸という)の診断で、手術をすべきか保存的に治すべきかという判断は今でも私は触診所見を一番大切にしている。ハイテクの時代、色々な学会で虫垂炎の診断は超音波検査とかCT検査とかで判断して大変有効であったと発表されてきた。時代に遅れまいとして、山下病院でもそれらの検査を行ったのであるが、どうも学会で発表されたような良い結果が得られなかったのである。検査のやり方が悪いから診断できなかったと言われれば返す言葉は無いが、消化器専門病院である山下の検査が悪いとは思いたくないのである。

結局のところ、昔ながらの触診所見でもって、虫垂炎の診断と手術すべきか保存的にすべきか判断するのが一番正しかったのである。現代のハイテク診断技術を何も否定するつもりはない。しかし、機械による診断を信ずるあまり、患者さんの話を聞くこと、体をよく診てよく触れて診察することを忘れてはならないと思うのである。

人間は機械ではない。心を持った生き物であることを忘れてはいけないと、口癖のように言うのだが、それでも今の若者達はハイテク機械を信じたいようである。(山下病院 院長)

11月会員登録	
協力会員	41人
利用会員	61人
賛助会員	121人
合計	223人

11月有償活動	
在宅活動件数	17件
在宅活動人数	29人
ミニデイサービス利用者	83人
移送サービス利用件数	158件
ふれあい広場利用日数	28日間
助け合い活動時間	377.5時間

11月介護保険活動	
利用件数	56件
生活支援	640時間
身体介護	465.5時間
合計	1105.5時間

11月支援費活動	
訪問件数	15件
身体介護	123時間
家事援助	36時間
移動介護	9時間
合計	168時間

2月の定例会

場所「まごころふれあい広場」

在宅支援・2月1日(日) 10:00~13:00

ミニデイ・2月5日(木) 16:00~17:00